

第1回熊本城復旧基本計画検証委員会 議事録

日時:令和4年(2022年)7月29日(金) 14:00~16:00

会場:桜の馬場城彩苑 多目的交流施設

出席者:蓑茂委員長、山尾副委員長、伊東委員、北野委員、坂本委員、原委員、三浦委員

熊本県文化課、熊本県都市計画課、熊本市文化財課、熊本市公園課

(リモート参加)国土交通省都市安全課、国土交通省公園緑地・景観課、

国土交通省九州地方整備局、文化庁文化資源活用課、文化財第二課

事務局:文化市民局: 横田局長

熊本城総合事務所: 濱田副所長、岩佐副所長、吉村副所長

渡辺技術主幹、田代主査、馬渡主査、小山主幹、森主査

熊本城調査研究センター: 橋本主幹、林田主査、増田主査、嘉村文化財保護主任主事

他

次第1	開会
次第2	委嘱状交付
次第3	委員紹介
次第4	文化市民局長挨拶
次第5	趣旨説明、運営要綱説明
次第6	委員長・副委員長選任 委員の互選により蓑茂委員を委員長に選任 蓑茂委員長の指名により山尾委員を副委員長に選任
次第7	議事
議事 1	現在までの実施状況
蓑茂委員長	事務局より資料1の説明をお願いしたい。
事務局	(資料1説明)
蓑茂委員長	ただいまの説明に対してご質問等ありますでしょうか。
山尾委員	復興城主と熊本城災害復旧支援金の割合を教えてください。

事務局	割合はだいたい半々であり、復興城主が約27億円あまり、災害復旧支援金が24億円あまり。寄付金額は年々減少傾向にあり、復興城主は開始当初の2割を切っている。
坂本委員	寄付金は基金に積まれるという理解でよいか。
事務局	すべて基金に入る。
坂本委員	そのうち53億4千万円あまりを事業費として使ったということか。
事務局	資料3ページに記載しているのは事業費として使った額。復興城主と熊本城災害復旧支援金の合計が51億8千万円とご説明差し上げたが、これとは別に、日本財団から25億円あまりのご寄附をいただいている。
坂本委員	ということは、3ページに記載の事業費の財源のうち、熊本城復元整備基金の中には日本財団分の寄附金も入っているのか。
事務局	3ページに記載している財源内訳の基金分の中には、復興城主、熊本城災害復旧支援、日本財団からの寄附金、県への寄附金も入っている。
蓑茂委員長	県への寄附金は、3ページのグラフの県補助金とは別か。
事務局	県補助金と県からの寄附金は別。
蓑茂委員長	資料の4ページは寄附金だけを示しているということか。
事務局	4ページの表は一般の方からの寄附金だけを記載している。このほかに日本財団からと県からの寄附金もある。
蓑茂委員長	3ページと4ページが対応していないということなので、資料の作り方として足りない部分があったようだ。 ご指摘を受けた寄附金の部分については事務局で整理をしておいてほしい。

議事2	「短期計画工程」及び「施策と具其他的な取り組み」に関する検証
蓑茂委員長	事務局より資料2の説明をお願いしたい。
事務局	(資料2説明)
蓑茂委員長	復旧基本計画の中で短期計画として取り組んだことや、そこで出てきた課題について具体的にご説明いただいた。何かご質問等あればご発言をいただきたい。
原委員	丁寧な説明ありがとうございました。資料2-1の3ページでご説明いただいた点について、現計画で20年間という計画期間の中で、非常に右肩上がりの急カーブになっている。今までの進捗状況からすると、少し厳しいのではないかという印象をもった。コロナ禍や災害等、いつ何が起こるか分からないという状況でもあるので、その点について

	<p>での検証はなされているか。</p>
事務局	<p>委員のご指摘のとおり、今後の事業量のグラフは急角度で上がっている。この5年間での様々な課題を整理しつつ、次の5年、次の10年ではしっかりと事業をこなせるような体制を作っていきたいという思いでこの検証を行っているところ。</p> <p>この点については、全体の工程にかかる課題ということで、議事3で整理させていただいている。一度、議事3の説明をお聞きいただいでから、重ねてお尋ねいただいてもよろしいか。</p>
蓑茂委員長	<p>それでよろしいでしょうか。他に何かあれば。</p>
北野委員	<p>資料2-4で、専門委員会の歩みをご説明いただいた。私は文化財の修理、史跡や石垣の部分で震災以前から関わらせていただいているが、振り返ってみると、毎年組織替えをしてきたことが改めて分かった。今自分がどこに参加しているか分からなくなるくらい、毎年変わってきた。それはある意味で、課題に対応しながら臨機応変にやってきたという成果だと思うし、議事がしっかり公開されていて、議論も検証できるかたちでやってきたことはよかったと思う。</p> <p>ただ、現在の体制では、文化財修復検討委員会と保存活用委員会がそれぞれ独立している。以前は大きな保存活用委員会の中に入っていたので、全体で透明性のある議論ができたが、現在は、修復検討委員会の側からみると、保存活用委員会でこういったことが議論されて、修復の分野とどのように関わってくるのかというトータルのすり合わせができていない状況である。</p> <p>その点については、中期計画において改善をご検討いただければと思う。</p>
事務局	<p>今後はそれぞれの委員会の状況が伝わるように、検討してまいりたい。</p>
蓑茂委員長	<p>検証委員会というのは、このようなプロセスを踏んできたということを見るのが重要。裾野を広く議論することと、専門性を高め、頂き高く議論すること、両方が必要だと思う。こうした委員会のあり方についてよく分かった。</p>
伊東委員	<p>北野委員からご指摘があった点について、保存活用委員会の中でも同様の意見があり、それを受けて、修復検討委員会の結果を保存活用委員会の中で報告いただくことにして、そのうえで議論をしてきた。同じようなことを、修復検討委員会の中でもやっていいのではないかと思う。</p>
山尾委員	<p>資料2-1の短期計画の検証の中で、当初の予定より早めに着手でき</p>

	<p>た部分があったとのこと。いろいろな理由はあったと思うが、今後もこのように早めたり、遅くなったりする部分はあると思う。</p> <p>予算の関係もあると思うが、早めた部分はなぜそれが可能だったのか、このような条件があれば可能であるとか、具体的なものはあるのか。</p>
事務局	<p>復旧事業を進めるにあたっては、市の予算、そして国交省と文化庁からの補助金について、前年度にしっかり積算して、その範囲内で実施することが大原則。</p> <p>早期に着手できたものについては、崩落石材の回収等、金額的にも事業者の確保についても、比較的融通のききやすい業務であった。</p> <p>いただいた補助金をすべて執行するために、このような業務を実施してきている。</p>
山尾委員	<p>今回の検証の結果をふまえて、これから5年後、10年後の計画で、いつ頃、何をするのかという点も見直しをすると考えてよろしいか。当初策定した復旧基本計画の内容を変えていることはあるのか。</p>
事務局	<p>優先順位の考え方などは、当初の計画の考え方を踏襲したいと考えている。それから、先ほど原委員からもご質問いただいた点について、今後の事業量等を踏まえて、計画全体がどうなるかについては、現在、コンサルを入れて、この5年間で実際に工程にかかった期間がどれだけだったかという検証を行っている。次の委員会までには精査をしてお示ししたいと考えている。</p>
蓑茂委員長	<p>資料2-1の3ページで完工率と事業進捗率についてご説明いただいた。事業進捗率の中の工程に、設計などいろいろあったかと思うが、どこが一番ネックになっているのか。</p>
事務局	<p>石垣の設計の部分が一番ネックになっていると思う。</p>
蓑茂委員長	<p>4ページの「測量・調査・設計・工事・工事監理」とある部分の「設計」のところか。人材がないのか。</p>
事務局	<p>人材がないというわけではない。特殊な設計となるので、専門の委員会でご審議をいただきながら進めている。前例のないものをひとつひとつやっているのもので難しい。</p>

議事3	石垣・建造物等の復旧に関する検証及び課題の整理
蓑茂委員長	事務局より資料3の説明をお願いしたい。先ほどの話題とつながってくると思うので、よろしく願います。
事務局	(資料3説明)
蓑茂委員長	7ページに整理してあるが、標準工期というものが、当初想定していた

	<p>より煩雑になってきているというか、時間がかかっているということ。それから、人の問題が表れてきていて、当初、短期の5年間で人が育て、それに応じて事業量が増えても大丈夫だろうという想定をしていたが、そう簡単ではないということ。</p> <p>それから、性格が違うとおっしゃったが、20年間立ち入りができないというわけにはいかないだろうということで、特別見学通路を設けている。それから、現代の工事は、ご覧のとおり超大型機械を入れてやる。昔の石垣作りとは違うところ。それで仮設の施設が増えている。それらの撤去をしまわないと、完全な復旧には至らない。その辺を考えなくてはいけないということだった。</p> <p>どこからでも結構ですので、ご質問、ご意見等を賜りたい。よろしくお願いする。</p>
坂本委員	<p>2ページの標準工期と実績の違いについて、それぞれ理由の分析をされていると思うが、なぜ2か月が1年になったのか、理由を教えてください。</p>
事務局	<p>お尋ねいただいたのは、④石垣測量について、2か月が1年になった理由の説明かと思う。他の城郭での実績から2か月と見込んでいたところで、実際、測量作業自体はその程度で終わっている。しかし、その後、石垣の設計を行う上で、崩れてしまった石垣を正確に図化する作業があり、そこに想定以上の期間がかかってしまい、トータルで1か年程度となっている。</p>
坂本委員	<p>それぞれそのような理由があると思うので、お示しいただければと思う。そのようなことは、全く初めての経験をしていく中では、当然出てくることかと思うので、工程を検証しながら見直していくという作業になるのだろう。</p> <p>一方で、人材の確保は、また別の大きな問題。この委員会で提言して、どこかを動かしていくようなことになるのか。どこがこの問題を引き取ってくれるのか。</p>
事務局	<p>石垣の解体や積み直しをする際に来ていただいているゼネコンや文化財保存の専門家の皆様に聞き取りを行っており、現段階では、年間でこなしていける事業量の想定をすることを考えている。</p> <p>今回の検証については、そういった数字での見直しをしていくこととしているが、今後、長期に引き続き石工の育成に取り組んでいく中で、見直しをしていく必要がある。次の見直しの際に成果が表れていけば、また全体の工程の見直しに影響が出てくる。しかし、いまずぐに倍増させることは困難であるので、いま確保できる石工さんや専門技術</p>

	者などに来ていただいて、実際に実施できる事業量で期間を想定してまいりたいと考えている。
坂本委員	いま以上に人材確保が難しくなると予想されるが、その範囲内でゼネコンなどをお願いしてスケジュールをまた考え直していくという理解でよいか。
事務局	事務局としては、そのようなかたちで工程の見直しをしていこうと考えている。
蓑茂委員長	人的なキャパシティがあるので、それで事業量を見直していかなければならない。事務局としてはその考えでいるということですね。
事務局	はい。事業量を適正化していくということで、一旦、工程の見直しも含めて検証していこうと考えているところ。
蓑茂委員長	人材というものが、自然と増えるものではないということが分かったということですね。 それから、前の坂本委員の質問で、測量の話があったが、正しい理解かどうか分からないが、光波測量とかになると、ごみとか草とかを外さなければ測量できないと聞いたことがある。最新の技術を使うと、そういったように昔とは違ってくる。そういったことが見込めていなかったのかもしれない。
事務局	おっしゃるとおりです。それから、先ほど坂本委員からご質問のあった、標準工期と比べてなぜ実績が伸びたのかという点については、2回目の検証委員会でご説明できるようにしたいと考えている。
蓑茂委員長	2ページの表で、標準工期から遅れたもの以外に、早まったものはないのか。
事務局	今のところ、早まったものはないと把握している。
北野委員	2ページの⑮報告書作成について、標準工期の設定がなかったということで愕然とした。他の工程と同時並行でやるということで設定していなかったのだと思うが、今後ずっとのしかかってくると思う。石垣を解体すると必ず生じる埋蔵文化財の調査報告書、それから事業報告書の2点は直営になると思うし、建造物の方は文建協などに委託できるかもしれないが、マネジメントは必要。これらを同時並行でやるにしても、事務局側のスタッフの労力は相当なもの。先送りにしていくと記憶も薄れるし資料を探すのも大変になる。5年やっているのに1冊ずつぐらい出ていないといけない。現状、相当負債を抱えているつもりで、組織と期間をしっかりと見積もってほしい。 もう一点。人材について。石工の人材確保は、研修会をやって養成していくというような悠長なことは言っていられない。白河小峰城も8年く

	<p>らい復旧をやってきたが、一番大事なのは、継続して現場に参加すること。これがまさに研修。現状の発注体制だと、ゼネコンに発注して下請けが入ることになると思うが、以前に研修をやった時には市内の若手の石工さんが来てくれたので、そういった会社にも話をしたうえで、これから継続的に下請けに入っていただくとか、業界の中で調整していただいて、同じ方が続けて工事に携わっていただけるような仕組みづくりをしていただきたい。</p> <p>白河では、当初初心者で入った石工さんが熱心な方で、8年間終わった後には文化財石垣保存技術協議会の後継者育成研修の指導者になっている。やっていくと横のつながり、たとえば他城郭で修理をやっている人だったり文化財石垣保存技術協議会での研修会に出たりして、加速度的に成長していく。そういう石工さんを、今後5年間で2人、3人と育てていく。そうすれば、その人たちが職長さんみたいになって、チームの責任者になっていくので、そういう仕組みをこの5年間で作ってほしいと思う。</p>
蓑茂委員長	<p>伝統技術であるとか伝統技能みたいなものは、OJT が基本だと思う。研修会をいくらやっても限界があるので、現場で雇ってもらうのが重要。そういう OJT の仕組みを期限付きで熊本城が作ると、それくらいのことが提案されてもいいと思う。そうしないとなかなか実績は上がらない。よろしく願います。</p>
伊東委員	<p>5ページに「確保」と「育成」とあり、いよいよ熊本市が育成の部分にも本腰を入れて考えてきたなと思った。「全国的に災害が頻発している状況であり、本市だけに留まらない課題」で「国や県や民間の協力が必要」と書いていただいているので、今のような蓑茂委員長や北野委員ご提案は、かなり現実的なこと。今後の熊本城の復旧を考えると、本当に必要なことなので、ぜひ他の城郭のある市町村と連携をして、熊本市が率先してこういった取り組みをしようという決意が感じられた。事務局としては事業量の適正化ということを説明されたが、育成の部分も今後の取組について検討していかれるのか。そこがまず一点。</p> <p>それから、今後、石垣が出来上がっていくと、上に載る木の建造物についても考えなければいけない。こちらの工事に必要な人材は十分確保できそうなのか。あらためてお尋ねしたい。熊本地震後、民間の工事をやる際には、あちこちで人材が足りないという話が聞こえてくるが、いかがか。</p>
事務局	<p>石工の育成について、事業量の適正化を行うから人材育成をしないということではない。当然、引き続き取り組んでいかなければならない</p>

	<p>と考えている。これまで、石垣の工事の仕様書に、石垣の修理工事に参加を希望する方がいたら、積極的に採用するように、といったかたちで配慮を促すような運用をしている。研修に参加いただいた若手の方も、実際に現場に参加いただいて、今年度も石垣の回収工事に石工として参加いただいている。ただ、委員の皆様からご提案いただいたように、もっと突っ込んだかたちで考えていなければいけないと感じており、今後委員の皆様とご相談しながら、我々として何ができるかを追求していかなければならないと思っている。</p> <p>建造物についても、人材が足りているという状況でないことは間違いない。文化財を扱うので、文化財主任技術者が工事を監理しなければいけないことになっているが、熊本城に常駐していただいているのは2名。今年度から宇土櫓のような大型物件も始まって、その他の櫓の工事も続いていく中で、もっと人材を熊本城にという話はさせていただいているが、まだいいお答えをいただいている状況ではない。全国的に文化財の修理が増えているということも聞いており、そのような中でどれだけ熊本城に人材を向けられるかということとは分からないが、継続して協議をさせていただきたいと考えている。</p>
<p>蓑茂委員長</p>	<p>人材育成は、一つの方式ではなかなか答えが出ない。いくつか、3タイプくらい、人材育成のスタイルを考えた方がいいと思う。</p> <p>その中でまだ触れられていないのは、人材養成という高等学校の教育との連携をどうするか。人材養成を、たとえば伝統建築でやっている。あるいは土木の高校の専門教育でやっている。養成はしているんだけど、その人たちがその職場に行っていない。こっちからは育成をやって、養成と繋げるということも、考えた方がいい。そうすると、皆さんが今まで考えていたパターンではない、2つ目のパターンができて、どちらかがうまくいくかもしれない。それくらいのことをやっていかないと、書くだけになってしまう。ぜひ考えてみてください。</p>
<p>坂本委員</p>	<p>先ほど、人材養成についてはどこが引き取ってくれるのかという言い方をしたが、この中で解決できるとは思っていない。大きな話なので。私は市立高校の再編の際にも発言したが、高校に石工学科があってもいい。日本全国1万もあるお城の石垣は、今後頻発する地震によって、必ず復旧作業は必要になるので、永遠に仕事はなくなる。その人材供給を熊本城のある熊本市からやるのは意義のあること。そこまで踏み込んで、どなたかがこの問題を引き取って大きな話にしていただけることがあればいいなと思って発言した。ゼネコンさんとの話に留まらず、先ほど他の委員からご発言があったように、熊本</p>

	市が育成に乗り出すというだけでも、すごい話になってくる。検証委員会とは違う話かもしれないが、就職まで考えた高校生の勉強としてはいいことだなと思う。
原委員	資料3の1ページで、「石垣の安定性に関する評価の実績がない」ということで、熊本城で初めて作成しているとある。これは、石垣に関する熊本モデルになるのでは。全国先駆けになるような取り組みになるのではないかと思う。ぜひ、そういったことを次世代につなぐということからも、映像による記録など、着実に何らかのかたちで残していただきたい。
蓑茂委員長	この検証委員会は、事務局の方で自己点検をしていただいたことに対して、こういう議論の仕方でいいでしょうということが目的の一つ。もう一つ、先生方の意見の中から新しい知恵を生み出していただくことが会議の役割。先ほどのような建設的な話をどんどんだしていただければありがたい。

議事4	復旧過程の段階的公開と活用に関する検証及び課題の整理
蓑茂委員長	事務局より資料4の説明をお願いします。
事務局	(資料4説明)
蓑茂委員長	ありがとうございました。それでは委員からご質問、ご意見を賜りたいと思います。
北野委員	この5年間で熊本城の情報発信、公開、活用というのはずいぶん進んで、我々は早い時期から復旧過程を見ていますが、SNS だったり、本当にいろいろな方法で魅力が発信されている。特別見学通路も好評。見たこともないような目線から石垣が見られたり、工事現場が見られたりする。そのご努力は大変なものだったと思う。評価したい。 そのうえで、11ページに課題をまとめていただいたところで、復旧状況の「見える化」については、たいへん大切だが、現状では観光客などへの目線が中心になっている気がする。文化財の公開・活用というのは、「見て、触れて、やってみて」という3つが大事。今石垣を修理している盛岡城や甲府城では、実際に石引きや石割りを体験してみたり、石にさわって伝統技術を体験できるようなことをやっている。もちろん安全管理は重要だが、これから熊本城でも事業が進んでいく中で、こういったことができる場所がきっとあると思う。「見える化」にとどまらず、もう少し石垣に近づく、建造物に近づく、そういった公開をしてほしい。それが一点。 情報公開の部分。大和郡山城の天守閣の復旧が終わったが、地元の映

	<p>像が好きな方が市と連携して、この修復過程を映像に記録してYouTube に3本くらいの動画を上げている。ぜひ見ていただきたい。本当に臨場感があって、何回も見たくなるようなものになっている。こういった方法を検討してほしい。</p> <p>学習・教育等への活用について、白河小峰城では、市内すべての小学校、12校の6年生が、8年間毎年工事現場に入って、取材して壁新聞を作ったり、写生をしたりということをしてきた。その8年間の記憶というのは、ひとつの世代の塊として、お城への愛着とか、自分たちが大人になってまた子どもとお城に来て、世代をつないで話ができるとか、そういった教育につながっている。熊本市は市の規模が大きいので同じようにはできないし、工事現場は危険なところも多いが、そこも工夫していただけたらありがたい。</p>
坂本委員	<p>観光の面から、ひとこと御礼を。これほどまでに素晴らしい特別見学通路ができるとは。コロナがなかったらすごい数の人が来ていたと思う。来年3月に熊本空港がフルオープンした後は、インバウンドが集中して熊本城を目指すだろう。書いてあるような「重要な観光資源」という程度のものでなく、宝物。これ以上のものはないというもの。それを見せる手法として、特別見学通路というのはものすごい発想。サグラダ・ファミリア方式と観光側では言われているが、ずっと変化し続ける、工事を続ける熊本城を見せるということ。</p> <p>かなり広いスペースのある見学通路になっているが、そのキャパシティに収まり切れない観光客が押し寄せることも想定して、どういう動線を作るか。たとえば、今後、天守閣前まで行って帰るルートになるという話も聞いているので、その場合の規制の仕方など、課題はあると思うが。</p> <p>仮設とはいえ今後何十年も特別見学通路を使い続けるということで、先ほど北野委員からご発言のあった体験型というのが、これから先、観光ではかなり有望とされているので、できればそういったことも、どこかの場所で考えていただきたい。よろしく願います。</p>
伊東委員	<p>公開エリアが広がらない中で、と書いていただいている。たしかに面積的には広がらないかもしれないが、もっと深く知っていただくということになるだろうか。あちこちで工事や調査が進んでいる。お城にはマニア、詳しい人がいて、お城に関するリアルな情報がほしいと思っている。建築にしてもそう。だから、現場に行くと最新の発見がよく分かるというのがいい。先日も、宇土櫓の石垣の調査をやっている際に、御殿のふすまの引手らしきものが出てきたということがあった。その</p>

	<p>引手がどういうものを分かってもらうことも必要だし、ここから出てきたんだと、現場に行くと本当に分かる。宇土櫓にしても、ここの柱が折れていたとか、そういったことが分かるようにする。解体した石垣からこういうものが出てきた。それはここのことなんだと分かるように、もっと丁寧に図解だったり、三次元の絵だったり、簡単にでもいいし、表現できるといい。</p> <p>いまの熊本城の見どころとして、ここの調査をして、ここを掘っている、今までこんな成果が出た、ということ、手書きでもなんでもいいので、分かりやすく示してもらおうと、もっと熊本城は面白いぞということになると思う。素人向けの分かりやすい説明も必要だが、本当に詳しい人に堪能して帰ってもらおうことも必要。本物が見られる熊本城にしていったらいいと思う。</p>
蓑茂委員長	<p>皆さんも触れられたが、私もまったく同感。災害が起きると消極的になったりするが、熊本城の天守閣の展示は、災害があつてよくなった。とくに、小学5、6年生から中学1、2年生くらいは、3時間くらいよく読んで回ると、社会科の勉強になる。そういうものを作れたということがよかった。</p> <p>見学通路も、最初はびくびくしながら提案していったが、評価はよかった。これがモデルとなって、首里城でも見学通路を作って修復することになった。</p> <p>それから先ほどからの話で、「見える化」については、視覚だけではなく触覚とか、人間の五感を使って、どういう風に熊本城を実感させるかということも重要なこと。</p> <p>いろいろな出版物も出ているようなので、それを作って終わらないで、それを利用する人が増えるように考えてもらいたいと思う。</p>

議事5	今後のスケジュール
蓑茂委員長	最後に事務局から資料5の説明をお願いします。
事務局	(資料5説明)
蓑茂委員長	何かご質問等はございますか。
坂本委員	情報発信について、最初に質問したが、寄附金が事業費の中にどういう形で入っているか分からなかった。せっかく多くの方々から復旧支援という形でいただいた寄附金なので、使い道についても情報発信に努めていただきたい。
蓑茂委員長	他にはよろしいですか。 皆様のご協力によって、参考になるご意見をいただきました。事務局に

	置かれましては次回に向けて検討していただきたい。
--	--------------------------

次第8	事務連絡
-----	------

次第9	閉会
-----	----